

平成25年度 教育モニターからの質問とその回答 6月分

月	住所	性	歳	質問および回答
6	笠松町	男	60	<p>〔 地域の特色を生かした学校づくり 〕 地域と連携し、地域に特徴的な自然を生かした教育活動は、いつまでも大切にしていきたい活動である。地域の学校以外で「地域と連携し、地域の自然を生かした活動」を行っている学校があれば紹介してほしい。</p> <p>岐阜県では、教育ビジョンの重点目標として、地域に根ざし地域の特色を生かした活力ある学校づくりを進めています。ほんの一部ですが、紹介します。</p> <p>揖斐川町立谷汲小学校の4年生 ギフ蝶の飼育・観察や、四ツ谷池ビオトープの魚の調査 同 5年生 谷汲の森林調査や環境保全活動(枝打ち・間伐体験) 山県市立いわ桜小学校 校名の由来ともなっている「イワザクラ」の育苗や移植 郷土に伝わる伝統芸能「葛原太鼓」を学び地域行事に積極的に参加 中津川市立田瀬小学校 「付知川の環境」「田瀬の史跡」「田瀬の農業」をテーマに、 地域の農家の方と積極的な関わりの中での探求学習 白川町立黒川中学校 地元保全会の指導により、地場産業である茶栽培、シイタケ栽培、林業についての体験</p> <p>どの活動においても、子どもたちは、ふるさとの自然と関わりながら、地域の方々と一緒に活動し教えていただくことによって、ふるさとの自然のよさを体感し愛情を深めています。</p> <p style="text-align: right;">〔 学校支援課 〕</p>
6	垂井町	男	60	<p>〔 特別支援学校の就労支援について 〕 特別支援学校(知的障がい)高等部の生徒が、学校で作業学習を行って就職を希望していると思うが、就職先の確保はどうなっているか。</p> <p>各特別支援学校における卒業生の就職先の確保については、進路指導担当教員を中心に各企業を訪問し職場開拓を行っています。また、生徒たちの夏休み期間に小学部から高等部までの全職員が職場開拓にあたり、就労体験の受け入れや卒業後の就労先の拡大を図っている学校もあります。さらに、地域のハローワークや障がい者就業・生活支援センターと学校が連携し、合同面接会に参加したり、企業に参加を呼び掛ける雇用推進セミナー等を開催したりするなど就職先の確保を行っています。</p> <p>県教育委員会では、高等部卒業生の増加に伴い、学校と企業が一体となって職業教育や就労支援を進める取組として平成22年11月に「働きたい！応援団ぎふ」の登録制度を創設しました。企業に協力していただくサポート項目として、就業体験の受け入れや1ヵ月～2ヵ月の長期にわたる企業内作業学習の受け入れ等のご協力をいただき、特別支援学校生徒の働く力の育成や就職先の拡大を図っております。平成25年5月末現在のサポーター企業登録数は455社となっています。平成24年度卒業生においては、サポーター企業29社に38人を雇用していただきました。</p> <p style="text-align: right;">〔 特別支援教育課 〕</p>
6	笠松町	男	60	<p>〔 少年の主張大会について 〕 各市町村の少年の主張大会の主催は、青少年育成町民会議 青少年育成部会である。学校に任せきりではなく、どのように青少年育成町(市)民会議が主体となって、「少年の主張大会」に向けての指導援助を児童・生徒にしているのか。その事例があれば紹介してほしい。</p> <p>少年の主張の主催は青少年市(町)民会議ですが、審査員を市(町)民会議の委員に依頼している関係上、公正な審査ができるように、作文指導などについては、学校にお願いしている状況です。各市町村の状況について、一部の市町村では、生徒が主体的に参加できるような運営を考えているところもあります。例えば、岐阜地区の各務原市では、司会や運営補助を中学生のボランティア(ふれコミ隊)に協力依頼しており、来場者からも大変好評です。</p> <p style="text-align: right;">〔 男女参画青少年課 〕</p>